



アエファ

AEFA 通信

NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F
電話 03(6426)0720 / FAX 03(6426)0721

～AEFAスタッフがゆく ベトナム 中部高原の小学校～ ダクラック省 ティントゥオン小学校



リエン校長先生は、交流にとっても意欲的です。「保土ヶ谷中学校との交流の部屋」とプレートが掲げられた部屋が設けられており、保土ヶ谷中から届いた壁新聞や協定書が掲示されていました。『校庭に、サクラを植えたい』と語るリエン先生。校長経験も30年近いベテラン先生です。高価な航空郵便代を自己負担して、保土ヶ谷中にエアメールも出しましたが、あて先がベトナム語だったため、学校から1.5kmの郵便局までは届いたものの、そこから戻ってしまいました。消印から、8/2にダクラックを出て、8/7には保土ヶ谷区の郵便局に届いていたことが分かりました。残念！！

交流の部屋



交流の部屋で、保土ヶ谷中の木村校長先生から贈られた色紙を手にする校長先生(右)

ティントゥオン小は、ハンセン病のコロニーと隣接しています。コロニーは各省にありますが、ダクラック省はここ、ティントゥオン小のある、エアナ地区（『愛』という意味）にあるだけです。1948年に作られた集落で、治療中の人や、治療の終わった人達が住んでいます。学校には花壇も美しく整備され、まさに愛情の感じられるところです。

コントウム省 チューオレン小学校 & 王子保小学校

グエン・ティ・トゥ・グエット校長先生にお話をうかがいました。

「15年ここで教えています。校長になって5年。少数民族の人たちの生活は貧しくて大変だけど、ここの子どもは無邪気で明るく、まっすぐです。子どもたちには安定した職業についてもらいたいです。」

一授業や教室の様子は、いかがですか？

「今、新しい校舎の建設が進んでいますが、新しい校舎ができれば、1週間に2-3日は全日制のクラスが行えるようになります。1週間すべてを全日制にしたいというのが、私の夢です」

今は教室が足りなくて、シートをかぶせただけの仮教室で授業をしています。5教室の新校舎が、3月末に完成する予定です。けんだまや羽子板など日本の遊びを紹介すると、最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、すっかり元気になって一緒に遊びました。



教室の壁はビニールシート。でも、子どもたちの表情は生き生きとしていました。

コントウム省 クルーン小学校 & 平井第二小学校

クルーン小には、10kmも離れたところから通っている子どもがいます。食事が十分に食べられず、おなかがずき、授業中寝てしまう子どももいるとのこと。

平井第二小学校の親善大使のみなさんが贈ってくれた絵、新聞、紹介カードを、クルーン小学校のお友だちに紹介しました。みんな、日本から届いた作品をとっても興味深そうに見ていました。新年度になったら、クルーン小学校からも返事が届く予定になっています。

AEFAスタッフが、かんたん日本語教室を開き、みんな練習。すぐに「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」が言えるようになりました。

平井第二小のお友だちも、ベトナム語のあいさつを覚えてくれるかもしれませんね！



平井第二のお友だちからの作品。初めて触れる『日本』に、みんな目をぱっちり見開いて見入っていました。



コントウム省

ニャックレオ小学校&向台小学校

ニャックレオ（ニャックとは、セダン族の言葉で『山』と言う意味）の結束は強く、村人は食べ物がないときは、分けあい、協力し合って生活しています。

A Thuin（ア・トゥイン）校長先生は、この小学校の卒業生。校長になって20年ですが、現在も、働きながら大学課程を受講して勉強を続けています。自分の子供たちは大学まで出しており、地域でも大変人望の厚い人だそうです。校長先生も、自宅に畑や水田を作り、鶏やあひるを飼っています。3月末に完成予定の新校舎が出来たら、薬草園を作る計画も進められています。

中野区向台小学校からの交流作品と、石澤校長先生からのメッセージを手渡しました。石澤校長先生は、現地の先生方にもう

すっかりお馴染みになっていました。

日本の学校生活の様子を紹介した作品も、興味深く見ていました。



向台小の作品に見入る

ダクラック省

グエンティミンカイ小学校&水島中学校

ダクラック省の省都ブンメトートの町から西に車で30分、ブオンドン地区にある小学校です。この地域は、土地に石が多いために農林業に適さず、中部高原で盛んに行なわれているコーヒー栽培にも適しません。産業は観光ぐらいしかなく、村は中心区に近いところにあるにもかかわらず、人々は貧しい生活を送っています。

グエンティミンカイ小学校では、まだ午前・午後の2部制で授業が行なわれています。少数民族エデ族やムオン族の子供たちが通っており、自分たちの民族に誇りを持つためにも、3年生以上は民族の言葉での授業も行なわれています。

「教育を受けて、子供たちが成長し、社会や国のために役立って欲しい」と語る校長先生。

倉敷市立水島中学校との交流が本格的に始まります。



協定書を取り交わす
左)AEFA佐藤
右)校長先生

ダクラック省

ブオンジャンラン小学校&千秀小学校

12月に完成した新校舎で、少数民族エデ族・ムオン族・ラオ族の子どもたちが学んでいます。家が貧しかったり、勉強についていけなくなって学校を辞めてしまう子どももいるそうですが、90%近くは卒業して中学に進学するとのことでした。

子どもたちに、千秀小のおともだちからの開校のお祝いのメッセージを届けました。千秀小は3階建ての校舎で、200人近くの生徒がいる・・・と聞いて、『そんなに大きな学校があるんだ・・・！』と驚いていました。



千秀小からのメッセージと、アオザイ姿の先生・子どもたち。

ベトナム南部チャビン省 フートゥー小学校の開校式が行なわれました

2/18に行なわれた開校式に、AEFA谷川理事長他スタッフが参列しました。去年の6月から、地元の村人達の協力で工事が行なわれ、みんなで作った学校です。生徒を代表して、5年生（最高学年）My Uy（ミーウイ）ちゃんがお礼の言葉を述べました。

「私たちの夢は新しい校舎で勉強することでした。いろいろな方のご支援のおかげで、夢が本当になりました。今、学校は新しい校舎の匂いがしています。本当にありがとうございました。」

子どもたちは式典に緊張していましたが、日本の河和田小のお友だちからのメッセージが届いたと聞くと、歓声をあげ、似顔絵付の紹介カードに見入っていました。加藤校長先生からの『小さな交流が大きな輪になってほしい』とのお祝いのメッセージも披露されました。



鼓笛隊の演奏も、式典に華を添えました。
真ん中の女の子がミーウイちゃん。